

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

平成28年12月2日（金）5校時

指導者 T1 担任・司書教諭

T2 学校司書

1 単元名 ごみについて考えよう

～捨てれば「ごみ」、分ければ「資源」～

2 単元の目標

○身の回りのごみ問題について関心をもち、自分なりの課題を見つけて進んで調べることができる。

(課題発見の力)

○ごみ問題について、自分たちの考えや実践を相手に分かりやすくまとめ、伝えることができる。

(表現力)

○ごみ問題について、友達と協力して自分たちにできることを考え、地域の中で実践することができる。

(コミュニケーション能力)

3 単元設定の理由

(1) 教材について

今年度4年生は、総合的な学習の時間で、「環境問題」を大きなテーマとして取り組んでいくことにした。1学期は「かんきょう問題について調べよう」という単元を設定し、自分の興味・関心のある課題を選びそのことについて、図書資料やインターネットなどを使って調べ、それをリーフレットにまとめる学習を行った。課題を決める際には、学年で課題設定のためのオリエンテーションを行った。イメージマップを使い、環境について知っていることや疑問に思ったことを出し合い、そこから、「①課題設定」→「②情報の収集」→「③整理・分析」→「④まとめ・表現」と行っていった。しかし、児童が設定した環境問題の課題が児童にとって身近なものではなく、環境問題について自分の問題として深く考え、実践することにはいたっていない。

【1学期の主な課題】

- ・動物はなぜ絶滅したのか（絶滅動物、絶滅寸前の動物について）
- ・川の水はなぜ汚れているのか
- ・地球温暖化でよく聞くオゾン層って何だろう
- ・外来魚が増えるとどうなるの

そこで2学期は自分たちの生活とも密接に関わっている「ごみ問題」に焦点をあてることにした。社会科の「ごみのしよりと利用」の単元でごみの処理や利用と自分たちの生活が深く関わっていることや地域社会の一員としてごみの減量やリサイクルなど自分たちにできることを考え協力していく必要があることを学ぶ。このように、「ごみ問題」は子どもたちにとって環境問題を考えるうえで身近な題材であり、自分たちの生活をもとに、体験的・実践的な学習活動を行うことが可能である。ごみを減らす活動を実践する際も、生活に密着した活動が行いやすいので、意欲をもって継続的に取り組むことができると考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

第1次では、導入の段階で、1学期と同様に学年で課題設定のオリエンテーションを行う。「ごみ問題」について調べて新聞にまとめようと投げかけ、課題設定を行っていく。社会科見学で見たり聞いたりしたことや学校のごみの様子や給食の食べ残しの量などを校務技能員さんや給食センターの方から聞き取り、その話も子どもたちに紹介する。それをふまえてイメージマップにより課題を広げていく。課題設定時には百科事典を使い、より身近なごみ問題を課題として設定できるように学校司書とともに支援していく。百科事典を使う際には、情報カードを活用し、情報の収集に必要なキーワードを抜き出していくことができるようにする。

第2次では、自分の課題について調べていく。個人で調べていくが、地域での活動やインタビューを行うため、課題別にグループ分けをしておき、校外での学習がグループごとにできるようにしておく。図書資料については、できるだけ最新の数字がのっているものを用意しておき、「ごみ問題」の対策が差し迫ったものであるということを実感させていきたい。図書資料やインターネットだけではなく、地域へ出かけての調査や、外部講師の方へのインタビューも積極的に取り入れるようにさせていく。調べた内容は、情報カードに要点をまとめておく。

第3次では、課題について調べたことを自分たちの生活と関連させながら新聞にまとめていく。調べてきたことをすべてのせるのではなく、収集したり取り出したりした情報を整理・分析することでより分かりやすい新聞作りを心がけていきたい。図や表、グラフなども積極的に取り入れ、より分かりやすい表し方を示していく。

本時では、「自分たちでできることを考えよう」と子どもたちに課題を提示する。課題について調べ、それを新聞にまとめていくために情報を整理・分析する最初の時間となる。まずは個人で調べた情報カードを①問題、②原因 ③解決方法、④地域での取り組みなど明確に仲間分けして、見出しをつけていく。その後、同じテーマの課題で調べている友達同士グループになり、地域での取り組みなどを参考に「できる？できない？」シートを使い、自分たちの生活と関連させてできることは何か考える。思考ツールを用いることで、考えたことが実行できるのかできないのかということを視覚的に捉えることができるようにする。グループでの話し合いを参考に自分が取り入れていきたいことを決め、それも新聞に取り入れていくよう伝える。

第4次では、自分たちで調べてきた「ごみ問題」についてどのようにして自分たちが関わっていけばいいのかを学年全体で考え、作戦として実行する。第3次までは、それぞれ学級で取り組んでいくが、第4次では学級を解体し、学年単位で課題別にグループを作り作戦を実行していく。3次までに考えていた自分たちにできることを「作戦の実行」という言葉でさらに児童の意欲を高めていきたい。4人の教員でそれぞれのグループの活動をきめ細かく支援していくことで、活動の幅も広がると考えている。グループでの作戦の話し合いでは、作戦が実行可能で持続して取り組めるものとなるように適切に助言することもできると考えている。学校や地域で自分たちが学習してきたことを体験的な活動を実行することで、主体的に課題を解決する喜びや楽しさを実感させたい。

第5次では、学習発表会で課題について調べたことと実践したことを保護者や地域の人に発表する。この学習でお世話になった地域の方や外部の講師の方も招待し、発表についてコメントをいただくことで、次への実践への意欲につなげたい。

4 単元の評価規準

学習方法に関すること		自分自身に関する こと	他者や社会とのかかわり
課題発見の力	表現力	課題追求の力	コミュニケーション能力
<p>(1) ごみ問題についてその意味や問題点をふまえて課題を見つけている。</p> <p>(2) ごみ問題について、解決の方法や手順を考え、活動の計画を立てている。</p>	<p>(1) 自分たちの考えや実践を相手に分かりやすく工夫して新聞にまとめている。</p>	<p>(1) ごみ問題について、自分たちの生活との関わりを考えながら追求し、自分たちにできることを実践しようとする。</p>	<p>(1) 異なる考えや意見も受け入れながら、友達と協力して活動している。</p> <p>(2) 地域の方の思いや願いを理解しようと積極的に話を聴いたり、尋ねたりしている。</p>

5. 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ア 各教科や体験したことの中から課題を設定し、計画を立てる。
- イ 必要な情報を収集し、目的に合わせて整理・分析する。
- ウ 相手や目的に応じて自分の言葉で効果的にまとめ、表現する。

【自分自身に関すること】

- エ 市のごみ問題やごみ減量化に対する取り組みについて、自分たちの生活との関わりを考えることができる。
- オ 自分にできることを考え、実践に結び付けることができる。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- カ 地域や市での取り組みに対し、自分から関わりをもとうとする。
- キ 友達によさや考えの違いを受け入れ、協同して調査や体験をする。
- ク 自分の思いや考えを伝え合い、学び合う。

6 学習指導計画・評価計画（全20時間）

時	主な学習活動	☆教師の支援等	★主な評価
① ②	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">ごみ問題について調べよう。</p> <p>○社会科見学や体験活動をから自分の課題を見つける。 ・学校から出されたごみや給食の残菜の量や困っていることなどを聞く。</p> <p><u>予想される課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別方法（5R・エコマーク） ・食べ残し（生ごみ） ・埋立地がなくなる（昔と今のごみの量） ・地域での取り組み（家庭・お店） ・不法投棄（ポイ捨て） ・外国のごみ問題 	<p>☆技能員さん、給食センターに協力をお願いします。</p> <p>★自分なりの課題を見つけることができる。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題発見の力</p>

<p>③ ⑧</p>	<p>○課題について調べるための計画を立てる。 ○自分の課題を追求する。</p> <p><u>調べる方法</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書資料 ・インターネット ・地域へ出かけての調査 ・市役所の人へのインタビュー 	<p>★課題解決に向けて大まかな学習計画を立てることができる。 課題発見の力</p> <p>☆必要に応じて、地域への調査・インタビューを行うことができるようにする。</p> <p>★地域や市での取り組みに対し、自分から関わりをもつことができる。 コミュニケーション能力</p>
<p>⑨ ⑬</p>	<div data-bbox="204 573 1121 645" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>調べたことをこれからの自分たちの生活と関連付けてまとめよう。</p> </div> <p>○図、表、写真などを使い、調べたことを分かりやすく新聞にまとめる。</p> <p>○新聞にまとめたことを発表し、感想を伝え合う。</p>	<p>★ごみの減量には自分たちの協力が不可欠であることを考え表現し、資料やインタビューメモを活用して新聞にまとめている。 表現力</p>
<p>⑭ ⑱</p>	<div data-bbox="228 947 1129 1010" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>捨てれば「ごみ」、分ければ「資源」作戦を実行しよう。</p> </div> <p>○地域社会の一員として、自分たちにできることは何かを考える。</p> <p><u>行動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別をする。 ・給食を残さず食べる。 ・紙のリサイクルをする。 ・牛乳パックを再利用する。 ・エコマーク商品を購入する。 <p><u>発信</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量を呼びかけるポスターを作る。 ・リサイクルで作った作品を展示する。 ・地域の活動に参加する。 ・給食の残菜やごみを減らすよう呼びかける。 	<p>☆取り組み期間を設定し、多様な活動ができるようにする。</p> <p>☆自分たちにできることを話し合わせることで、継続してごみの減量を意識して実践できるようにする。</p> <p>★ごみの処理と自分たちの生活との関わりを考え、ごみの減量や資源の再利用の取り組みに協力しようとしている。 課題追求の力</p>
<p>⑲ ⑳</p>	<div data-bbox="228 1711 1070 1787" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>学校や地域でのごみの減量について調べたことを発表しよう。</p> </div> <p>○ごみ問題やごみ減量の取り組みを地域や保護者の方に報告する。(学習発表会)</p>	<p>★自分が調べたことや実践したことを分かりやすく発表している。 表現力</p>

7 本時の活動

- (1) ねらい
- ・「ごみ問題」を解決するために自分たちにできることは何かを考えることができる。
(課題追究の力)
 - ・自分たちにできることをグループで話し合い、協同して取り組もうとしている。
(コミュニケーション能力)

(2) 展開 (9 / 20)

学習活動	教師の支援と留意点		評価 (評価方法)
	T 1	T 2	
1. 本時のめあてを確認する。	・ 前時までの授業を振り返り、本時であることをおさえる。		
「ごみ問題」を解決するために、自分たちにできることは何かをグループの友達と いっしょに考えよう			
2. 情報を整理する。 ・ まずは個別に自分の調べた情報カードを整理して仲間分けする。 ・ グループでそれぞれに仲間分けしたものを確認する。	・ 情報を比べたり関連させたりしながら仲間分けをして見出しをつけさせる。	・ 支援が必要なグループで一緒に活動する。	・ 情報カードをもとに、収集した情報を整理し、仲間分けができる。 (行動観察・ホワイトボード)
3. 自分たちの生活と関連させて考えることは何か考える。 ・ 思考ツールを用いてグループで考える。	・ 地域の人の取り組みや調べたことを参考にし、て考えさせる。	・ 支援が必要なグループで一緒に活動する。	・ 思考ツールを用いて自分たちにできることは何かを考えている。(思考ツール)
4. グループで考えたことを全体で共有する。 ・ グループで考えたことを発表する。	・ 全体で共有することで、実践への意欲を高める。		
5. 振り返りをする。			

(3) 予想される児童の具体的な姿

十分に満足できる	おおむね満足できる	支援を必要とする児童への手立て
調べたことをもとに、自分たちにできることをツールを用いて複数考えることができる。	調べたことをもとに、自分たちにできることをツールを用いて考えることができる。	自分たちにできることがツールを用いても考えることができない。

(4) 研究の視点

- ・ グループで話し合ったことは、協同して取り組むために有効であったか。
- ・ 自分たちにできることは何かを考える際、ツールを使って考えることは適切であったか。